

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬 写真・GPS 北村
山行番. NO. 2046-1	
日 時	2023年11月25日(土) 無風・曇
山 域	西丹沢・檜洞丸(1601m) 小笄(ここうげ) 南西尾根～檜洞丸～石棚山稜・1450m 峰 ・北西尾根
コース	長泉町 5:35-竹沢種苗店 5:40-西丹沢・自然教室 7:00-小笄南西尾根-シカ柵-縦走路 9:48 -檜洞丸 10:53~11:30(昼食)-石棚山稜 1450m 峰北西尾根-シカ柵・二箇所-東沢 14:14 自然教室 14:50-車両事故 15:20-長泉町
標高差	上り 自然教室・約550m～檜洞丸1600m=約1050m 下り 自然教室・約550m～檜洞丸1600m=約1050m
難易度	非常に困難 レ困難 やや困難 普通 やや易しい 易しい
山のバリバリバリエーションは最高だった！	
参加者	井上、北村、山田=3名

11月最終週。来月からアルパインは雪山に行くようになる。雪山山行は厳しい。だから、自分の体を慣らすためにも、ハイキングではなく、少しキツ目のコースを探していた。

はじめは西丹沢でも畦ヶ丸を周回するコースを考えていたが、会長から檜洞丸のバリエーションコースを提案され、2020年の山行記録も参考にできたので、それを頼りに挑戦することにした。

天気予報は晴れだったが、西丹沢の自然教室を出発する時点では薄曇り。そして寒い。ただ雨の心配はない感じだ。この日は丹沢以外の山域は、ほぼ天候は不良の予報だった。今回は、上りも下りもかなりバリエーションを通るコース。この場合、YAMAPには頼れない。2万5千分の1の紙地図を印刷して、丹沢の山と高原地図も買って、前回記録のGPSのルートを見ながらコースを確認して、山行をスタートした。



自然教室



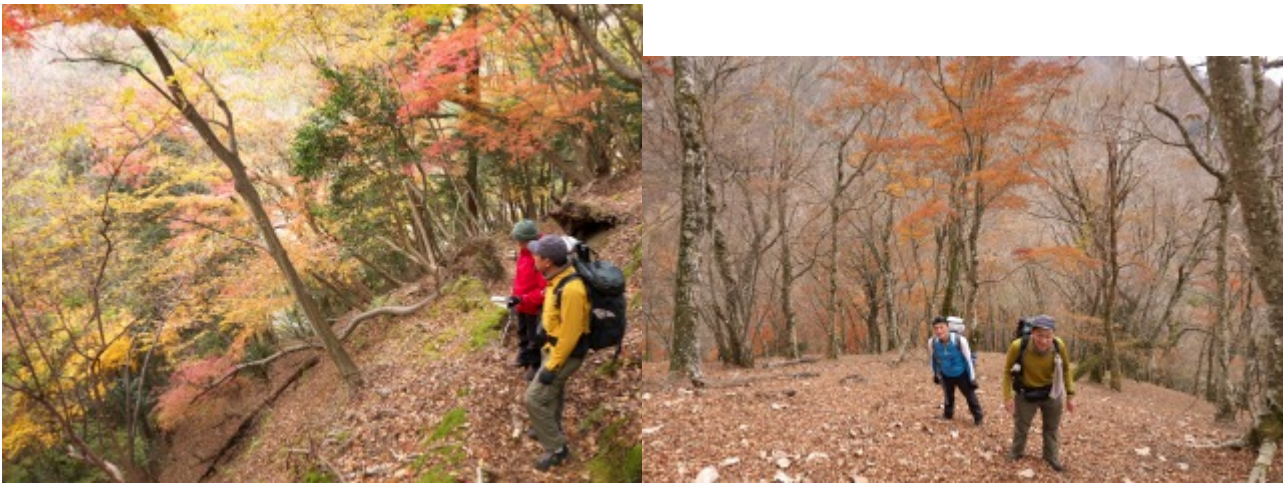
大室山

はじめは一般道を通るが、バリエーションに入るところを間違えないように、地形と地

図と高度計を見ながら慎重に進む。今回は3名いるので、それぞれの地図読みの見解も聞けるから心強い。標高700mあたりで、ここがバリエーションの尾根だろうというところが見つかった。ここからが本番だ。

バリエーションの尾根を登り始めると、そこは紅葉のトンネルだった。もうすっかり紅葉の季節は終わったのかと思ったが、まだ残っていて、点在する紅葉のコントラストが、とてもきれいだ。

一度、林道に出て、再び尾根を登る。前回の記録にあった鹿柵が右手に現れた後、1回目の急登が来た。まだ標高は950mくらいで、ブナ混じりの林であり、地面は枯れ葉が積もっていて、踏ん張りが効かずに登りにくい。



紅葉ランド

ハアハア言いながら汗が吹き出てきた。登る前はいかに寒かったのに滝汗だ。標高1100mくらいまで登ると坂も少なだらかになり、尾根一体がブナ林で、一息つけた。登った坂を振り返ると、西丹沢の山々が見事で、素晴らしい景色に驚いた。

針葉樹の緑の部分と落葉樹で、ブナやイチョウなどが落葉して枝だけになっている部分もあれば、まだ紅葉が残っている部分もあり、その迷彩色のような景色が一带に広がっていた。

「この景色で、(曇ではなく)青空で、遠くに富士山が見えたら最高でしたね」なんてことを3人で話しながら、景色を眺め、少し休憩し、先に進むと目の前に尖った山のような尾根が現れた。場所は檜洞丸と大越路を通る一般道の小筈と大筈の間くらいだろうか。

前日に地図を見ていたら等高線が詰まっているので、一気に登る急登だと思っていたが、眼前に現れたのは、本当に垂直の壁面のようなだった。ここが上りのバリエーションの最終パートだ。

「やったるで一！」と意気込んで対峙するが、斜面が岩と土と木の根が混じっていて、岩はグラグラ、土はザラザラ。木の根はつかむとパキッと簡単に折れるものもある。危ない斜面なので、体重をかける支点を確認して探しながら進む。

普通、この急斜面の一般道なら、必ず鎖かロープがあるだろう。でもここにはない。さらに厄介だったのはトゲ。トゲのある枝が斜面のそこいらじゅうにあり、手や上着に刺さって痛い。



屏風岩山（？）



ブナ殻斗（かくと）



急登

上着も傷む。トゲを回避しながら、足場を確保して上がる。それにしても先頭のKさんは身軽だ。ひよいひよいと足場を見つけて、上がって行く。

先に上がったKさんが、「わーすごい」と唸った。急登の中腹でちょっと平らなスペースがあって、そこで後ろを振り返ったら、ブナ林の尾根から見たときより俯瞰した丹沢の大パノラマが見えていた。

Kさんは壁面から張り出した木に登って写真を撮りだした。「す、すごいな」こんな怖いところで、いい写真を撮るためには命懸けか！恐るべきカメラマン魂。でも後で見せても



恐怖の階段

らった写真はすばらしかった。

とにかく危ない岩凌帯を登り切り、一般道に出た。これで一安心。大笄までの稜線歩きは歩きやすいし、眺めはいいし、楽しかった。しかし、熊笹ノ峰から檜洞丸を見ると延々と地獄の階段が続いている。

そして、実は、檜洞丸までのこの階段が全コースの中で一番きつかった。自分の歩幅で歩けず単調な階段は、登山というより、トレーニングで、部活でスクワットをさせられているようなつまらなさ。太腿がきつい。

やっとの思いで、檜洞丸山頂についた。まだ11時前だったがお腹が空いたので昼食をとる。停滞すると急に寒さを感じる。山頂付近は霜柱もあった。気温を確認すると3度だった。温かい食べ物、飲み物が体に沁みわたる。エネルギーチャージができれば、下山開始だ。



山頂の三羽鳥



地図読み・1



地図読み・2



地図読み・3

下山は石棚山に向かう一般道からはじまるのだが、途中で下りのバリエーションに入る。地図で見ると標高差があまりない緩やかな稜線が続くので、バリエーションの入り口が分かりづらい。地図で見ると尾根をつたっていくので、右手の尾根を探すが、稜線から大きく下ってから始まる尾根が多く、間違えて降りて、登り返すのはつらいから避けたい。地図とコンパスと高度計で現在地を3人で確認して、バリエーションルートに入った。しばらく降りてからGPSで確認したら、ちゃんと地図上の尾根を降りていた。「自分で道を探しながら行く楽しさ。アプリ頼りの山行が山の楽しさの一部を失っていること」を体感した。静かなブナ林の中、落ち葉を踏んで降りていく。

バリエーションの終盤は岩場になり、ルートを間違えやすく、歩きにくいところもあったが、なんとか東沢に出た。我々が沢に出たら、雲もなくなり、丹沢は快晴になった。

紅葉が一段ときれいで景色を楽しみ、キャンプをしている人たちを見ながら歩いていたら、自然教室に帰って来ることができた。ハラハラ、ドキドキはあったが、実に楽しい山

行だった。この時期、このルートで山行ができてよかった。

ここからは、山行記録ではないので、備忘録的に書き留めるが、下山報告後、追突事故にあってしまった。丹沢湖を過ぎた道の駅山北あたりを走行中、横断歩行者がいたので車を停めて待っているところに、後ろから前方不注意の車に追突された。

幸い大きな怪我はなかったが、車は後部が大きく凹み、事故対応に追われた。下山後の路上でこんなバリエーションが待っているとは思わなかった。(事故模様は、会報の会報告に纏めてあります)

追記・・・このルートは、2020/05/17、後藤・加藤・井上で上りました。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/01-106.pdf>



下山

